
 平成 29 年度  
 新東名高速道路建設に伴う発掘調査  
**ぼだい よこて いせき  
 菩提横手遺跡**  
 主催 公益財団法人かながわ考古学財団  
 共催 秦野市教育委員会

## 古墳群の調査

### 菩提横手遺跡の発掘調査

菩提横手遺跡の調査は、中日本高速道路株式会社が計画する新東名高速道路建設事業に伴い、平成 28 年 12 月より実施しております。

発掘調査では古墳時代から近世にいたるまでの多くの遺構や遺物が見つっています。そのうち古墳時代では後期の古墳 3 基を調査しています。2 基はこれまで知られておらず、新たに見つかったものです。

これらの古墳は、葛葉川右岸の丘陵南斜面に 3 基整然と東西に並んで築かれており、墳丘からは秦野盆地が一望できることから、眺望のよい場所を選んで築かれたことが想像されます。

古墳は全て円墳と呼ばれるもので、文字通り丸い形をしたものです。主体部は横穴式石室で、南側に入口を設けています。それぞれの古墳の周囲には、周溝と呼ばれる溝が巡っていました。

さらに調査地から、2 km 南の水無川沿いには県内でも有数の規模を誇る桜土手古墳群が位置しており、周囲にはいくつもの古墳群が点在しています。古墳時代の秦野盆地の様子を感じていただけたら幸いです。



写真 1 調査地周辺空中写真  
(国土地理院ウェブサイトより転載・加筆)



写真 2 調査地遠景



写真 3 1～3号墳全景



図 1 遺跡位置図



写真 4 1号墳石室検出状況



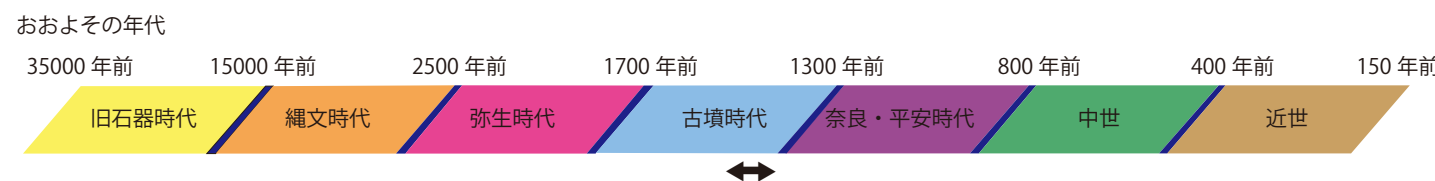
写真 5 2号墳石室検出状況



写真 6 3号墳石室検出状況



写真 7 桜土手古墳群の復元古墳



※矢印は今回の調査で発見された遺構や遺物のおおよその時期を示したものです。  
 ※この内容は調査段階のものであり、今後の調査成果や出土品等整理などにより評価を変える場合があります。





写真8 1号墳全景



写真9 2号墳全景

墳丘規模は、1号墳が最も大きく直径16.4mです。周溝の幅は2.5mあり、周溝を含めると21.4mにもなります。次いで3号墳が直径12.2m、周溝の幅2.7mです。最も規模の小さい2号墳が直径8.8m、周溝の幅は2.7mでした。いずれの古墳も墳丘の上部の高まりは後の時代に削られ残っていませんでした。

石室（遺体を葬る部屋）は1・2号墳が良好な状態で見つかりました。特に1号墳は天井石も残存し、当時の姿をとどめていました。1号墳の石室規模は長さ6.7m、幅1.1mあります。天井石には長さ1.25～1.6m、幅0.55～0.72m、重さ400～600kgもある大きな石が用いられていました。石は主に凝灰岩で東側を流れる葛葉川から運んできたと見られます。2号墳の石室規模は長さ3m、幅0.7mです。石室内からは人骨の一部が見つかりました。3号墳は石室の奥壁付近のみが残存しており、残存長1.5m、幅0.85mです。

それぞれの古墳の周溝から須恵器長頸壺・甕片、1号墳からは鉄鏃が見つっています。

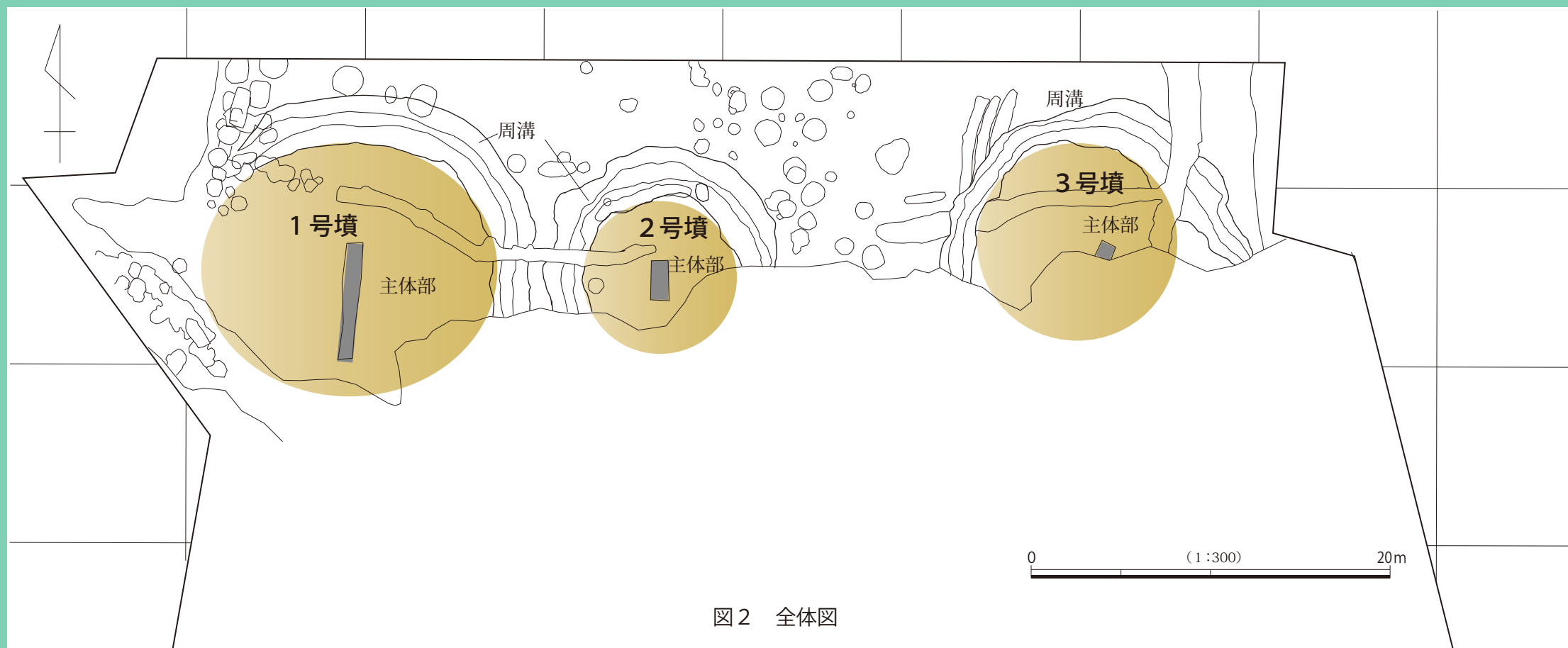


図2 全体図



写真10 3号墳全景



写真15 2号墳周溝断面



写真11 1号墳石室



写真12 1号墳周溝から出土した鉄鏃



写真13 2号墳石室



写真14 2号墳周溝から出土した須恵器

平成29年度  
 新東名高速道路建設に伴う発掘調査  
 考古学財団  
 菩提横手遺跡見学会資料  
 2017年6月10日  
 発行 公益財団法人かながわ考古学財団  
 〒232-0033 横浜市南区中村町3-191-1  
 TEL045-252-8689 <http://kaf.or.jp>